

## 2020年度 日本老年看護学会生涯学習支援研修〔基礎編〕報告

開催日時 2021年3月14日(日) 9時30分～12時30分

会場 ZOOM (ホスト:小野、共同ホスト:西村、飯山、三重野)

参加者数 23名 (会員 20名、非会員 3名)

運営担当 西村(久留米大学病院)、小野(大分大学)、飯山(熊本保健科学大学)

テーマ 急性期病院における高齢者の尊厳を守る看護実践  
～コロナ禍でも身体拘束をあたりまえにしない看護～

### 【講義(60分)】

1. 「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」日本老年看護学会の立場表明2016の紹介・解説(15分)  
日本老年看護学会 副理事長/大分大学 三重野英子
2. 「医療や介護を受ける高齢者の尊厳を守るためのガイドライン」「身体拘束予防ガイドライン」  
(日本看護倫理学会)の紹介・解説(15分)  
日本老年看護学会生涯学習委員/日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員/  
大分大学 小野光美
3. 実践報告「身体拘束低減に向けた取り組み」(30分)  
日本老年看護学会生涯学習委員/久留米大学病院 老人看護専門看護師 西村知子

### 【グループワーク(65分)】+【発表(25分)】

4グループにわかれ、以下の視点についてグループディスカッションを行った。

- コロナ禍における所属部署の現状(取り組みや課題)の紹介、共有
- 「身体拘束をしない」が難しい理由/「身体拘束をしない」がうまくいった理由
- 高齢者の尊厳を守るための方策・身体拘束をしないための方策(明日からできること!)

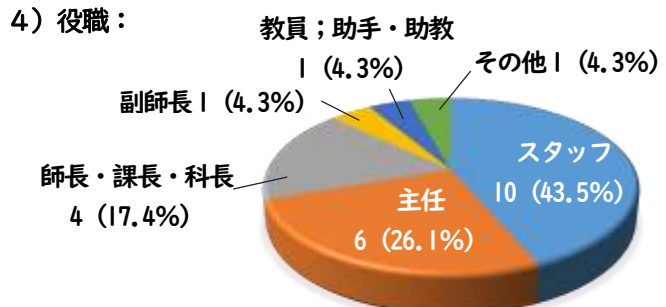
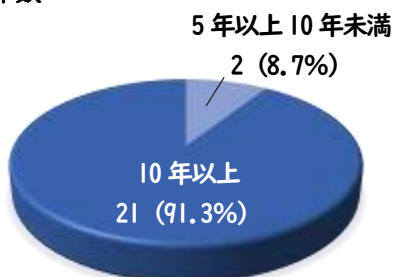
[\*各グループのファシリテーターは、運営・講師の西村、小野、飯山、三重野が担当した]

最後に、ディスカッションの内容について各グループ5分間程度で紹介をもらった。

### 【アンケート結果・感想】(回収数;23、回収率100%)

#### 1. 参加者の概要および研修設定に対する意見

- 1) 入会状況:会員 20名(87.0%)、非会員 3名(13.0%)
- 2) 現在の勤務先:一般病院 22名(95.7%)、教育機関 1(4.3%)
- 3) 経験年数:
- 4) 役職:



#### 4) 研修を知ったきっかけ(複数回答):

老年看護学会ホームページ(15)、学会からのメール(6)、学会関係者の紹介・FAX(7)

#### 5) 開催時期:良い23名(100%)

\*希望する開催時期;尊厳重視の看護を目的として管理者に取り組んでいただきたいので、次年度の病棟目標を検討する段階のあたり(1~2月)だといいいのかと感じました(1)

6) 研修時間(長さ) : 良い 23 名 (100%) (グループワーク終了後の意見やアドバイスを頂ける時間が欲しかった)

\*希望する研修時間; 半日 (1)、午後から (1)、午前中 (1)

7) 受講動機(複数回答可) :

テーマに関心があった (22)、講師に関心があった (6)、Zoom で参加しやすかった (5)、  
参加費が安かった (4)、その他 (1; 看護活動の現状を知ることや把握するため)

8) 研修参加費について : ちょうど良い 18 名 (78.3%)、もっと高くてもよい 4 名 (17.4%)、

もっと安くして欲しい 1 名 (4.3%) \*意見 (希望金額) : 5,000 円以内 (1)、500 円 (1)

## 2. 研修会の内容について

1) 本日のテーマについて : 非常に興味がある 21 名 (91.3%)、まあ興味がある 2 名 (8.7%)

[意見] ・治療を行っているうえで、挿管チューブ、CV ラインやドレーン等どうしても抜かれては生命の危機につながる場合、身体拘束が外せない場合がもちろんあるが、それ以外に外せる場合や外す検討ができるはずなのにそのままになっている場合もあり、どうすれば外していけるのかを考えたいと思った。また、他施設では出のような工夫がされているのかも知りたかった。

・コロナ禍における現状と課題が共有できた。

・スタッフ間での価値観の違いで身体拘束が当たり前、仕方ない、考えても解決しない、といった職場風土があったので、自分の悩みにぴったりだと感じました。 等

2) 期待通りであったか : 期待通り 17 名 (73.9%)、まあ期待通り 6 名 (26.1%)

[意見] ・グループワークでは、他病院の様々な立場で実践されている方々の意見や考えが伺えて、勉強になりました。

・グループワークはとても有意義で、自施設と同じようなことをしていることもあれば、そういう方法もあったのかと新しく使える意見もいただけたので、是非継続開催していただきたい。

・NS のアセスメント不足への取り組みが参考になった。

・自分が悩んでいること、感じていることと同じ意見の方がたくさんいて、嬉しかったです。普段は自分の考えていることが病院内で浮いている感じが辛かったのですが、自分だけではないことが再確認できました。

・期待以上に学びを得た研修でした。日頃の看護管理への示唆もいただき、今後取り組みたいことが見えました。また日頃の実践が情報共有でき意義がありました。

・より具体的なケア方法やスタッフ教育、院内の取り組みを聞けるとよかったです。それには時間が必要。成功事例や失敗事例なども他施設での状況を知りたかった。 等

3) 老年看護における看護師の生涯学習支援について : 非常に必要 21 名 (91.3%)、

まあ必要 2 名 (8.7%)

[意見] ・意外と新人や経験年数が浅い看護師は教育をしっかり受けているが、病院を引っ張っている中堅の教育がなかなかされていないのが現状。また、管理者の教育がされていないとなかなかうまくいかないことが多い。

・これでいいと思わせない自分をつないでいくための良い刺激になる。

・講義受講してからのグループワークは自己研鑽に繋がり参考になる

・普段、忙しくてなかなか最新の知見を集めるのは大変ですが、定期的に研修を受けることで、自身のスキルアップにつながっています。 等

4) 今後このような研修に参加したいか : とても参加したい 20 名 (87.0%)、

まあ参加したい 3 名 (13.0%)

[意見] ・今回は Web 研修でしたので移動することなく参加できましたが、その後の交流ができるともっと意見交換ができていくと感じました。

- ・今回のように、全国からの参加者が集まり話し合える機会は貴重なので、機会を見つけて参加していこうと考えます。
- ・僻地に住んでいるため、今後もオンラインでの研修を企画していただけるとありがたいです。
- ・勤務により参加できないこともあるので2回開催して欲しい。
- ・これからも、継続して研修会には参加していきたいと思います。 等

#### 5) 今後取り上げてほしいテーマについて (自由記載) :

- ・高齢者/認知症高齢者の意思決定支援 (4) [他施設での取り組みや課題、成功事例など学びたい]
- ・倫理に関すること (2)
- ・コロナ禍における急性期病院に入院する高齢者のアクティビティや院内デイについて (1)
- ・身体拘束に関する研修会を継続して開催して欲しい (1)
- ・認知症ケアチームの取りくみについて (1)
  - [高齢者の生活を支援していくために、もっと施設や支援者同士が知識や思いを共有し、連携が出来ないか悩んでいる]
- ・生活の場に戻る高齢者をケアする急性期病院に求められるものとは (1)
  - [高齢者をケアする施設職員や訪問看護・医師、家族の視点などから検討したい]
- ・学会が認めるような学会認定の制度などができると参加者が増えるのではないかと思う (1)

#### 6) その他 (自由記載) :

- ・ZOOMを活用した研修参加が初めてであったこと、自分自身の学習不足もありとても緊張いたしました。他の病院で色々工夫されていることを知ることができとても有意義であったとともに、今後さらに学習を深めていきたいとさらに考えることができました。今後も研修に積極的に参加させていただきたいと思います。
- ・施設内に認定看護師が1名しかいない為、このような同じ悩みや目標を持った方々と時間を共有できることにとても感謝しております。自分のモチベーションの維持のためにも今後も参加させていただきたいと思います。
- ・グループワークでのワード記録を参加者で共有できるようにダウンロードできるようにして欲しい。
- ・とても緊張していたのですが、ファシリテーターの先生からお声掛けをいただいて、緊張がほぐれました。ありがとうございました。
- ・大変興味深い研修をありがとうございました。あっという間の3時間でした。他の施設での話や高齢者の尊厳や看護の重要性を時間をかけて話し合う機会を持って、日頃のもやもやも少し軽減したように感じます。もっと自分の施設外の方と何でも聞き合える環境が欲しいと感じました。やはり自分の施設だけ、自分だけで考えても視野が狭いなど、他の意見も聞きたいと感じました。ファシリテーターなど役割の割り振りが迅速であったことで、他で経験した通信での会 (他2回を経験) に比べるととても分かりやすく、参加もしやすかったです。方法を具体的に説明して下さったのもこちら側では大変助かりました。まだまだ慣れない通信での会への参加は緊張しました。コロナ禍で患者様だけでなく医療従事者もスタッフ間で話す機会が減り (懇親会がなかったり、昼食を個々で摂取しなければならなかったり等) ストレスをためています。このように他人の意見を聞き合える機会は大切だと感じました。 等